

令和6年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立東糀谷小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・第2学年は、日記指導を定期的に取り入れたことで、普段の授業でも、考えを表現することに自分から取り組むことができる児童が増えた。
- ・第4学年は、「情報の扱い方に関する事項」が前年度より目標値に近付いた。文章や図表から必要な情報を取り出したり、関係付けて線でつないだりする活動を行ったことが、成果につながった。
- ・第6学年は、説明文を読んだり、文章を書いたりする問題に対して目標値を上回った。全教科で各活動を積極的に取り入れたことが成果となった。

(2) 課題

- ・第2学年は、読書の時間を確保したり、授業の最初の時間に詩の暗唱や言葉遊びを取り入れたりすることで、新しい言葉を学び、活用できる語彙を増やしていく必要がある。
- ・第4学年は、目標値に対して下回る結果となった項目が多くあった。特に、書くことの領域において、継続的な指導が必要である。
- ・第5学年は、目標値に対して下回る項目が多くあった。特に言葉の学習や説明文の読み取り、文章を書く項目において、継続的な指導が必要である。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第4学年	目標値に対して▼		
第5学年	目標値に対して▼	目標値に対して▼ (第4学年時)	
第6学年	目標値に対して△	目標値に対して△ (第5学年時)	目標値に対して△ (第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
言語についての知識・理解については、目標値を下回った。	思考・判断・表現について、調べたことをもとに文章を書くことにおいて、目標値を下回った。	国語への関心・意欲・態度は目標値を下回った。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
言語についての知識・理解については目標値の平均を下回った。(5年) 漢字の読み書きについては、目標値を上回ったが、言葉の学習については、目標値を下回った。(6年)	話の内容を聞き取ったり、物語の内容を読み取ったりすることは目標値のほぼ平均であったが、それ以外は下回った。(5年)	国語への関心・意欲・態度は目標値を下回った。(5年)

3 授業改善のポイント(観点別)

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・フラッシュカードなどを用いて、平仮名、片仮名の促音・長音・拗音などの決まりを身に付けさせる。 ・既習の平仮名や漢字を、文章の中で使う習慣を付けさせることで、定着を図る。 ・行事や学習活動に合わせた作文指導を継続的に取り組ませ、目的を明確にして書く活動を行う。 ・初めて取り組む活動の際には、教員や児童のお手本を示すことで、自分の課題に生かすことができるようにする。	・分からない言葉の意味を調べたり、大事な箇所に下線を引いたりすることを通して、文章の内容の大体を捉えることができるようにする。 ・話型や文型を示すことで、自分の考えを整理して表現できるようにする。 ・掲示物やデジタル教材などを活用し、適切な話し方、聞き方を提示することで、話し合いを円滑に進めることができるようにする。	・朝読書の継続や週1回の図書の時間の確保、専門員やボランティアによる読み聞かせを通して、本に親しむ機会を増やす。 ・全体で発表する前に、ペアやグループで話す時間を設け、自信をもって自分の考えを発表できるようにする。 ・音読発表会などを効果的に取り入れ、表現する楽しさを味わえる学習活動を行う。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・主語と述語については小単元の学習以外でも作文などの中で継続的に繰り返し指導する。 ・既習の漢字について、普段のノートや文章の中で使う習慣を付ける。 ・国語の時間以外にも国語辞典や漢字辞典を活用し、言葉の意味を深める。	・場面の移り変わりに注意し、登場人物の心情の変化など、叙述に即して読むよう指導する。 ・ICTを積極的に活用し、自分の考えを表現させる。友達と意見を交流することで、話の中心に気を付けて聞いて、質問したり感想を述べたりする力を付ける。	・朝読書の継続や週1回の図書の時間、専門員による読み聞かせ、ブックトーク等を通して、本に親しむ機会を増やす。 ・俳句の暗唱や百人一首などを通して、言葉への興味・関心を高める。 ・行事や学習活動に合わせた作文指導を取り入れたり、短い文で自分の考えを書いたりするなど継続的に書く活動を行う。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 主語、述語、修飾語、敬語など、小単元の学習以外でも読むことや作文などの中で継続的に繰り返し指導する。 - 漢字ドリルなどを活用し、漢字のミニテストを繰り返すなどして読み書きの定着を図ったり、既習の漢字を文章の中で使う習慣を付けたりする。 - 同一の意味を様々な言葉で表現する活動を行う。 「書くって楽しいね」を活用し、文章の書き方を理解させる。	- 自分の考え、事実、説明などを書く活動を、国語をはじめ他教科でも取り入れる。その際、指定された文字数で書いたり、段落構成を考えて書いたりする経験を増やす。 - 説明文を読み取る際には、段落ごとの内容の読み取りや段落相互の関係を考える学習を丁寧に行う。 - 文章の内容の要旨を捉えたり、事実と意見などの関係をおさえ、自分の考えを明確にしながら読んだりする活動に取り組む。	- 朝読書の継続や週1回の図書の日、専門員による読み聞かせ、ブックトーク等を通して、本に親しむ機会を増やす。 - 俳句や短歌の暗唱、百人一首などを通して、言葉への興味・関心を高める。 - ICTを活用して、興味・関心を高める学習活動を行う。

令和6年度 算数科 授業改善推進プラン

大田区立東糀谷小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ICTを活用した授業を展開したことにより、画像や動画などを用い、具体物を操作するなどの視覚的な情報をもとに授業を実施した。その結果、児童の関心・意欲を高めたり、学習の理解を深めたりすることができた。
- ・授業の場でタブレットドリルや算数アプリを活用したことにより、基礎・基本の計算力が上がった。
- ・習熟度別グループ授業において、個の能力に応じた学習を行うことにより、一人一人の「分かった」「できた」経験を増やすことができた。

(2) 課題

- ・3～5学年において、基礎・基本の計算の習得に課題がある児童がいる。個別指導や、繰り返しの学習に重点を置き、当該学年までの学習内容が定着するよう継続的な指導が必要である。
- ・班やペア活動で自分の考えを表現し、説明する機会を意図的に設け、増やすことで思考・判断・表現の能力を高める。
- ・ノートの書き方が定着していない児童が多く見られるため、書画カメラなどを活用して書き方の見本を提示しながら板書させることにより「丁寧に計算する」「自分の考えを文や式に表す」など「分かりやすいノートづくり」の指導をしていく。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第4学年	目標値に対して▼		
第5学年	目標値に対して▼	目標値に対して▼ (第4学年時)	
第6学年	目標値に対して＝	目標値に対して▼ (第5学年時)	目標値に対して▼ (第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・第4学年においては、目標値に対し同程度の評価であった。 ・第4学年においては、「時間と時刻」「小数の相対的な大きさ」「棒グラフの数値の	・第4学年においては、目標値に対し大きく下回った。 ・第4学年においては、「棒グラフを正しく読み取り、1目盛りの大きさに着目して説明する」「余りを切り上げ	・目標値より低い評価であった。 ・第4学年においては、「2つの時刻の間の時間を求める」問題について課題があるが、作図の問題について概ね

読み取り」の問題について課題がある。	て処理する問題ができ、その理由を説明する」などの記述問題について課題がある。	目標値に達している。
--------------------	--	------------

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・第5学年においては目標値より低く、第6学年においては同程度の評価であった。 ・四則計算や分数や小数の表し方などの知識は目標値に達している。 ・分数や小数のわり算に課題がある。	・目標値より低い評価であった。 ・第5学年において、角の大きさの問題、第6学年において、小数の文章問題では目標値を上回った。 ・第5学年「変わり方調べ」、第6学年「円グラフや帯グラフ・平均」での値の求め方や読み取れたわけを説明する問題について課題がある。	・第5学年においては、目標値に対し大きく下回った。 ・作図問題について、第5学年の平行四辺形の作図に課題があったが、第6学年の合同な三角形の作図は目標値を大きく上回った。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・タブレット端末と紙を併用し、毎回の学習内容の習得を確実にする。 ・デジタル教科書、動画等ICTの活用と共に絵図やブロックといった具体物を活用した授業を展開し、視覚的に分かりやすい授業を行う。	・班やペア活動で自分の考えを表現し、説明する機会を意図的に設け協同学習を行う。（可能な範囲で振り返りコメントのできる機会を作る）	・習熟度別学習を行い、児童が「分かった」「できる」「楽しい」と実感できる授業を行う。 ・ICTを活用した学習を多く取り入れ、画像や動画を使用し児童の興味・関心を高める。

（2）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・タブレット端末と紙を併用し、毎回の学習内容の習得を確実にする。 ・ICTの活用と共に絵図やブロックといった具体物を活用した授業を展開し、視覚的に分かりやすい授業を行う。	・班やペア活動で自分の考えを表現し、説明する機会を意図的に設け協同学習を行う。（可能な範囲で振り返りコメントのできる機会を作る） ・児童の多様な考えをアプリ等を活用し、クラス全体で考えの共有を行う。 ・板書を基に、自分の考えを整理し工夫したノートづくりを行うとともに、他者とノ	・習熟度別学習を行い、児童が「分かった」「できる」「楽しい」と実感できる授業を行う。 ・ICTを活用した学習を多く取り入れ、画像や動画を使用し児童の興味・関心を高める。

	ートを見せ合う協同学習を行う。	
--	-----------------	--

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・タブレット端末と紙を併用し、毎回の学習内容の習得を確実にする。 ・「数と計算」の領域では、言葉や問題の意味をとらえるため、図や文章を付記し理解する、相手に説明する活動を行う。 ・わり算の筆算の仕方を定着させる。	・班やペア活動で自分の考えを表現し、説明する機会を意図的に設け協同学習を行う。 (可能な範囲で振り返りコメントのできる機会を作る) ・自分の考えを式や図、言葉などで表現できるようにする。 ・「変化と関係」「データの活用」領域では、伴って変わる関係を式にしたり、読み取ったデータについて説明したりする活動を多く取り入れる。	・習熟度別学習を行い、児童が「分かった」「できる」「楽しい」と実感できる授業を行う。 ・ICTを活用した学習を多く取り入れ、画像や動画を使用し児童の興味・関心を高める。 ・児童同士でミニ先生役として教え合う場面を設け、お互いに力をのばしていける環境づくりをする。

令和6年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立東糀谷小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ICTの活用により、植物、昆虫、魚など「生命」領域では観察に力を入れてきた結果、しっかりできて学力の定着につながった。
- ・観察・実験の前に観察・実験器具や用具の使い方を示したり確認したりしたことによって、正しい使い方や扱い方を守って観察・実験することができた児童が増加した。
- ・教室前の廊下を活用して、現在進行している学習に関わるものを展示したり、掲示したりしたことで全学年の多くの児童が理科への興味関心をもつようになった。

(2) 課題

- ・目標値に対して下回る結果となった項目が多くあった。生物や科学の本を図書室のおすすめコーナーに設置したり、朝の会などで話題に出したりし、理科に接する機会を増やす必要がある。
- ・「知識・技能」について、特に「エネルギー」「生命」の領域に対して、基礎的な知識を十分に身に付けさせることができていない。随時既習事項の復習を行いながら授業を進め、学習内容の定着を図る必要がある。
- ・「思考・判断・表現」について、理科的な事物・現象を科学的に分析する方法を考えたり、根拠を示して表現したりすることに課題がある。観察や実験の前に予想を立てたり、結果から考察をしたりする時間を十分にとる必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第4学年	目標値に対して▼		
第5学年	目標値に対して▼	目標値に対して▼ (第4学年時)	
第6学年	目標値に対して▼	目標値に対して△ (第5学年時)	目標値に対して▼ (第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・自然事象に対する概念や性質・規則性の理解を深めるために、体験的活動を多く取り入れた学習は定着率がやや高くなっている。	・問題に対して既習事項や生活経験を基に根拠のある予想や仮説を発想する力が低い。また、実験の結果からどのようなことが言えるのかを言語化、文章化する機会が少ないことが考えられる。	・科学的な事象と実生活が結びついていないことが考えられる。結びついていないことを体験的に学習しているので、主体的に課題に取り組む姿勢が作れず興味関心の低い児童が多くなっていると考えられる。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・科学的な問題解決を行うために必要な観察・実験等の基本的な技能が定着できていない。 ・自然事象に対する概念や性質・規則性の理解を深めるための、体験的活動の時間が足りていないことが考えられる。	・実験結果を表やグラフに整理する活動が不足していることが考えられる。 ・自然現象の変化や働きについて、より妥当な考えを見出す力を高めるために、自分の言葉で考察をまとめる機会をより増やす必要性が感じられる。また、考える際には、考える視点を与える必要がある。	・学習したことを身近な経験や生活に結び付けて考え・予想するなど、興味をもたせる学習の工夫が必要である。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・実験器具の名前を言わせるなどの活動をしてから対象や目的に応じて観察・実験器具を適切に操作することができるよう、目的を共有してから操作方法を確認させる。 ・飼育・栽培や観察実験では、具体的に着目する視点(葉の数や形等)を与え、予想や仮説などを基に検証させる。 ・天気や月、星の動きなど身近に体験しにくい学習では、デジタル教材を授業に取り入れるなど、視覚支援を充実させる。 ・学習した理科用語を授業中に振り返る機会を意図的に取り入れ、学習内容の理解と知識の定着を深める。 ・日常的に教科書の「確かめよう」のページを活用し小テストを行い、知識の定着を図る。	・問題解決の資質・能力を向上させるために、「①課題を知る②予想の立て方を知る③方法を知る④事実を書く⑤結果から考えたことを書く」といった問題解決の流れに沿って板書を行う。 ・予想を立て、その根拠を自分の経験や既習学習から用いて言葉で説明したり書いたりする機会を増やす。 ・実験などの結果を記録する際、毎回同じ視点で比べるように促し、関係性や違いに気付かせる。 ・実験などの結果から考察ができるように、初めのうちは書き方の例を示したり、穴埋めにしたりするなどの支援をする。 ・単元を通してペア学習やグループ学習を積極的に取り入れ、話し合いを通して物事を多面的に考え、妥当性のある結論を導き出せるようにする。	・主体的に学習に取り組ませるため、児童の体験から結び付けて問題をつくっていく。 ・事象に十分に関わらせ、「なぜ」を大切にしながら学んだことと生活との関わりを振り返る時間を設け、学習内容を深く理解したり、新しい問題を見付けようとしたりする態度を育てる。 ・デジタル教材やタブレット学習を授業に取り入れるなど、視覚支援を充実させ活動しやすい環境を作る。

(2) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・資料を活用する学習を多く取り入れ、具体的に注目する視点を与えることで資料からいえることを考える力を高める。 ・天気や月、星の動きなど身近に体験できない学習では、デジタル教材を授業に取り入れるなど、視覚支援を充実させる。 ・実験器具の名前を言わせることで使い方を定着させていく。更に観察や実験のやり方を教師が手本（動画を事前に準備する等）を示して確認させることで、正しい実験の仕方や実験器具の扱い方を身に付けさせる。 ・実験の後や単元のまとめの時間に、実験結果や知識を活用・適用して解く問題を設定して、知識の定着を図る。 ・日常的に教科書の「確かめよう」のページを活用し小テストを行い、知識の定着を図る。	・問題解決の資質・能力を高めるために、「①課題を見付ける②予想を立てる③方法を見付ける④事実を整理して書く⑤結果から考えたことに理由を付けて書く⑥友達と共有する」という学習活動を繰り返し行う。 ・仮説や考察を書かせるときに、自分の考えに対しての根拠・理由付けにあたるものを入れて書くように指導する。その際、書き方の例を示す。 ・単元を通してペア学習やグループ学習を積極的に取り入れ、話し合いを通して物事を多面的に考え、妥当性のある結論を導き出せるようにする。 ・実験結果を、表やグラフに自分の力でまとめることができるよう、算数科における既習事項と関連させた復習の時間を設ける。	・導入時に演示実験や映像資料を取り入れたり、児童が調べてみたいと思うような課題提示をしたりすることで、理科に対する興味・関心を高めていく。 ・体験活動から問題を作っていく、体験できない事象については、視聴覚資料やICTを活用して意欲を高める。 ・学んだことを日常とつなげたり生かしたりすることができるよう、実験や観察の結果からどんなことが身近なことに使われているか考えたり、話し合ったりする機会を設ける。 ・理科に関する掲示物や学級文庫に科学的な本を意図的に置くなど、学習環境を整える。

令和6年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立東糀谷小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・具体物やICTを活用した授業を展開したことで児童の興味・関心を高めることができ、学習内容の理解につながった。
- ・タブレットを活用し子どもたちの考えを共有することができたので、学級全体での理解を深めることができた。
- ・デジタル教科書を利用したことで、写真からだけでなく動画からも学ぶことができた。
- ・教科担任制を実施し、より深く教材研究をすることで授業に還元することができた。

(2) 課題

- ・地図記号や地図帳の基本的な使い方、都道府県の位置など定着を図っていく必要がある。
- ・記述問題で、問題に対する自分の考えや選択した理由を説明する力を伸ばすことに課題がある。知識として身に付いていることを、問題に合わせて記述する練習を行っていく必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第4学年	目標値に対して▼		
第5学年	目標値に対して▼	目標値に対して▼ (第4学年時)	
第6学年	目標値に対して≡	目標値に対して▲ (第5学年時)	目標値に対して▼ (第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・方位や地図記号など、基本的な知識の定着と、問題に対して文章で解答する力を身に付けていく必要がある。 ・消防署の役割や火災発生時に何番に電話すればよいかなどについて、より理解していく必要がある。 ・複数の資料から分かることを正しく読み取り、整理してまとめる活動を取り入れる必要がある。	・資料に基づき与えられた条件から読み取る力が弱い。問題文を読んで、分かったことに対して、自分の考えを表現する活動を授業に取り入れていく必要がある。 ・資料から必要なことを読み取る力が弱い。図や年表から判断する活動を増やす必要がある。	・社会に対する事柄を自ら調べるなど、さらに学びに向かう姿勢を育てる必要がある。地域にある身近な教材を授業で扱うなど、意欲的に活動できるような工夫を行う必要がある。 ・自分の考えを書かせたり発表させたりするなど、タブレットも用いて問題に対して関心をもてるような授業展開をする必要がある。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・社会的な用語、都道府県や国の名前などと地域や地方の特色などを合わせて覚えるようにし、基本的な知識を定着させる必要がある。 ・複数の資料を関連付けて、正しく情報を読み取る必要がある。 ・用語や地形、方位など基本的な知識を定着させる必要がある。	・自らの考えを文章で表現することに課題がある。そのため、自分の考えを書かせたり、お互いに伝えあったりする活動が必要である。 ・複数の資料を関連付けて考察したり、資料から必要なことを読み取ったりすることが弱いので、複数の図や年表から判断する活動を増やす必要がある。	・社会に対する興味・関心を高める必要がある。ゲストティーチャーや体験的・疑似体験的な活動を積極的に取り入れた授業の工夫を行う必要がある。 ・タブレットを使って問題に取り組む時間を作るなど、取り組みやすい活動を増やす必要がある。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・3年生は地図記号、地図帳の基本的な使い方をしっかり教える。定期的に定着を確認していく。 ・4年生は47都道府県の名称と位置を理解する。都道府県名も漢字（国語科配当）で書けるように教える。地図を積極的に活用し、八方位を含めた見方の活動を増やしていく。 ・算数の棒グラフや折れ線グラフの学習と関連させて、資料やグラフから読み取る力を身に付ける。	・毎時間の授業の最後5分間は、学習のまとめを自分の力でノートやタブレットに書けるような活動を取り入れる。 ・単元を通してペア学習やグループ学習で、お互いの考えを伝え合う活動を積極的に取り入れる。タブレットも活用し、考えを共有しやすくしていく。 ・資料から読み取る際は、そのどこを見ればよいのか、ポイントを示していく。 ・ノートや新聞などにまとめるときも、モデルを教師から示してまとめる。	・社会科の興味・関心を高めるために、身近な教材を授業の中に取り入れていく。 ・社会科見学だけでなく、近隣の施設や工場、スーパーマーケットなどにも見学に行き、体験的な活動をたくさん取り入れていく。 ・地図記号や都道府県のクイズ、ミニテストなどを取り入れ、楽しく興味をもてるような授業の工夫をする。 ・日常生活から、学習に関連する問題を取り上げて使うようにする。

(2) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・5年生は都道府県名・世界の国名と国旗・世界の中での日本の位置など、6年生は歴史上の人物についても定着できるように、プリントなどを使って定期的に復習を行う。 ・単元で大切な言葉を穴埋め問題にするなど、ワークシートやタブレットを活用して楽しく覚えられるようにする。 ・算数の学習との相互性を生かし、複数のグラフから関連性を捉え正しく読み取る練習を行う。 ・複数の資料から社会的な関連や、どのような問題があるかなどを考える練習を行う。	・毎時間、学習のまとめを自分の力で書く活動を取り入れる。その際、キーワードや根拠を明らかにして自分の考えをノートやタブレットに書くようにする。また、どのような問題点があり、どのような取り組みができるかなどを考えさせてまとめさせる。 ・単元を通してペア学習やグループ学習で、お互いの意見や考えを伝え合わせる活動を積極的に取り入れる。タブレットも活用し考えを共有していく。 ・新聞やポスターなどにまとめる際は、書くべき内容（テーマ）を必ず教師から示してまとめるようにする。	・体験学習やゲストティーチャーを招いて行う授業を取り入れていく。 ・世界の国や歴史上の人物についてのクイズやミニテストを取り入れ、楽しく覚えてより興味をもてるような授業の工夫をする。 ・デジタル教科書を授業に取り入れ映像による資料を多く提示し、興味関心を高めていく。 ・社会科見学などで工場見学をしていく。また、事前に関連する動画や具体物を用いて、関心を高める。 ・政治や国際社会の学習では、時事問題などを取り上げ、意見を出させるなどし、関心を高める。

令和6年度 生活科 授業改善推進プラン

大田区立東糀谷小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・気付いたことや自分が思ったことを、絵や言葉で表現出来る児童が増えた。
- ・体験的活動から、生活上必要な習慣や技能を身に付けることができた。
- ・保護者だけでなく、地域の人・ゲストティーチャーの人材を活用することができた。

(2) 課題

- ・他教科と関連した単元を構成し、より気付きを高めていくことが課題である。
- ・活動ごとに振り返り、評価をしていく。

2 観点別分析

低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
友達、地域の方と触れ合う活動を通して、生活上必要な習慣や知識を身に付けさせることができたので、今後も続けていく。	野菜の栽培や体験的活動を中心とはしているが、児童の考えを深めさせる活動まで十分に行えていない。	体験的な活動は意欲的に行っている。 自分で決めた目標に向かって活動することはできていない。

3 授業改善のポイント（観点別）

低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
季節感や日常生活における行事などを大切にし、自分自身とのかかわりを重視しながら、体験的活動を行うことができるようにする。	「気付き」を基に自分の考えをもつことが難しい児童に対しては、「見付ける、比べる、例える」などの具体的な視点を与えて支援する。 気付きの質を高めるために、どのような体験や活動が適切であるかを吟味し、指導計画の見直しを行う。	他教科と関連した単元を構成したり、家庭と連携を図り学習したことを体験させたりして、児童が主体的に学習に取り組むことができるようにする。 学習教材に対して、児童が具体的な視点やねらいをもって主体的に取り組めるように、学校図書や学級文庫、インターネットを活用する。

令和6年度 音楽科 授業改善推進プラン

大田区立東糀谷小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・興味関心が高く、意欲的に取り組む姿勢が多く見られる。
- ・器楽の技能はスモールステップかつ反復学習により、着実に技能を身に付けることができている。

(2) 課題

- ・学んだ知識や技能を生かすことがまだ十分ではない。
- ・感じ取ったことと聴き取ったことを結び付けて考える力が十分ではない。

2 分析（観点別）

①低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
・拍にのってリズムを取ることができるようになってきた。 ・音の高さを感じ取って歌うことができている。 ・鍵盤ハーモニカを拍にのって演奏する技能に課題がある。	・身体を使って音楽の様子を表し、感じ取ったことを適切な言葉で表す力に課題がある。	・興味・関心が高く、意欲的に楽しく音楽活動に取り組む姿が多く見られる。

②中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
・互いの歌声を聴きながら、自然で無理のない発声で歌うことができている。 ・吹奏楽器の演奏においては、指遣いに気を付けて、タンギングをして美しい音色で演奏する技能の定着が見られる。 ・第3学年から始まる階名に親しむ学習に意欲的に取り組んでいる。	・感じ取ったことが音楽の要素の何に基づいているのか考える力に課題が見られる。	・興味関心が高く、発表の場面においても意欲的に取り組む姿が多く見られる。

③高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
・互いの声を聴き合って高さの異なる声部を重ねて歌う技能に課題がある。	・感じ取ったことが音楽の要素の何に基づいているのか考える力に課題が見られる。	・歌唱や器楽の学習においては概ねの児童が意欲的に取り組んでいる。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・音や音楽に合わせて身体を動かす活動を多く展開し、拍感を身に付けさせる。 ・鍵盤ハーモニカの演奏技能はスモールステップで習得させる。	・音楽の様子を表す言葉の揭示を充実させ、児童自ら判断して適切な言葉を選べるようにする。	・身体を伴った活動や児童同士の交流の機会を多く設定し、様々な音楽に親しみ、音楽への興味関心を高める。

（2）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・リコーダーの息遣いやタンギング等の基本的な技能について、必要感をもたせて習得させる。 ・階名の学習等、楽典的な学習を体験的に習得させる。	・感じ取ったことが音楽の要素の何に基づいているのか、揭示物と関連付けし、視覚的・身体的に捉えさせる。	・読譜に関する学習を体験的に習得させ、児童同士の交流の機会を多く設定し、様々な音楽に親しみ興味関心を高める。

（3）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・スモールステップでハーモニーをつくる学習を積み重ねる。	・感じ取ったことが音楽の要素の何に基づいているのか、揭示物と関連付けし、視覚的・身体的に捉えさせる。	・身近な物事や既習事項と関連付けて学習に対する必要感をもたせ、音楽への興味関心を高める。

令和6年度 図画工作科 授業改善推進プラン

大田区立東糀谷小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・わかりやすく取り組みやすい活動を提示し、めあてを明確にもたせて表現に取り組ませることにより、学習に向かう態度が向上した。
- ・ICT機器を活用しながら児童の目の前で「やってみせる」ことを確実にを行い、材料や用具の特性への理解度を高めることができた。
- ・制作途中の児童作品や各国の美術作品を都度紹介することによって鑑賞の機会を増やし、造形的なよさに気付かせ、自分の見方や感じ方を広げさせることができた。

(2) 課題

- ・児童の学びに対する意欲の個人差が大きく、関心をもって主体的に学ぶことができない児童もいる。
- ・用具の正しい扱い方や作品制作の手順について、理解するのに時間がかかったり理解が難しかったりする児童がいる。
- ・表したいことを見付けたり表し方を工夫したりすることが苦手な児童がいる。

2 観点別分析

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・材料や道具の特性を理解し、手や体全体の感覚などを働かせて表そうとしている。 ・表現の技能には個人差があり、手や体全体の感覚の継続的な育成が必要であると考ええる。	・材料の形や色などから造形的なよさを思いつき、どのように表すかを考えながら学習している。 ・好きな形や色を選んだり、いろいろな形や色を考えたりしながら表し方を工夫している。	・鑑賞の活動では、ほとんどの児童が主体的に取り組んでいる。 ・表現の活動では、どの児童も学びに対する意欲が一定以上あり、表現を楽しんでいる。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・材料や道具を適切に扱い、前学年までの経験を生かしながら手や体全体を働かせて表そうとする児童が多い。 ・表現の技能は個人差が大きく、手や体全体の感覚の継続的な育成が必要であると考ええる。	・感じたこと、想像したこと、見たことから表したいことを見付け、どのように表すかを考えながら学習している児童が多いが、考え工夫する力が不十分な児童もいる。 ・形や色、材料などを生かしながら、表し方を工夫している。	・鑑賞の活動では、ほとんどの児童が主体的に取り組んでいる。 ・表現の活動では、学びに対する意欲に個人差がある。気持ちが散漫になり、一つの表現に集中することが難しい児童もいる。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・表現方法に合わせて材料や道具を選ぶことができる児童が多い。前学年までの経験や技能を生かして表そうとする児童もみられる。 ・表現の技能は個人差が大きい。活動の経験を増やし、表す力を継続的に育成する必要があると考える。	・感じたこと、想像したこと、見たこと、伝え合いたいことから表したいことを積極的に見付けようとする児童もいるが、発想や構想の力は個人差が大きい。「美しい」「表したい」と感じる経験を増やし、表現力を高めたいと考える。	・学習意欲の個人差がある。高い意欲で自分の表現に主体的に取り組む児童がいる一方で、気持ちが散漫になり、学習に集中することが難しい児童もいる。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ICT機器を活用しながら児童の目の前で「やってみせる」ことを確実にし、材料や用具の特性を理解させる。 ・表現活動の時間を確保し、手や体全体の感覚の育成に努める。	・制作途中の作品や各国の美術作品を都度紹介することによって鑑賞の機会を増やす。そのことにより表現の工夫に気付かせ、自分の見方や感じ方を広げさせる。	・わかりやすく取り組みやすい活動を提示し、めあてを明確にもたせて表現に取り組ませる。 ・それぞれの児童が興味をもっていることを学習内容と結び付け、学習意欲を高める。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ICT機器を活用しながら児童の目の前で「やってみせる」ことを確実にし、材料や用具の適切な扱い方を理解させる。 ・表現活動の時間を確保し、手や体全体の感覚の育成に努める。	・制作途中の作品や各国の美術作品を都度紹介することによって鑑賞の機会を増やす。そのことにより造形的なよさに気付かせ、自分の見方や感じ方を広げさせる。	・わかりやすく取り組みやすい活動を提示し、めあてを明確にもたせて表現に取り組ませる。 ・それぞれの児童が興味をもっていることを学習内容と結び付け、意欲を高める。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・前学年までの経験を振り返らせ、自分のもつ経験や技能が生かせることを感じさせる。 ・ICT機器を活用しながら児童の目の前で「やってみせる」ことを確実にし、材料や用具の適切な扱い方を理解させる。 ・表現活動の時間を確保し、手や体全体の感覚の育成に努める。	・制作途中の作品や各国の美術作品を都度紹介することによって鑑賞の機会を増やす。そのことにより造形的なよさや美しさ、表現の意図に気付かせ、自分の見方や感じ方を広げさせる。 ・それぞれの児童が興味をもっていることを表現に生かすよう指導していく。	・わかりやすく取り組みやすい活動を提示し、具体的なゴールを明示して学習に取り組ませる。 ・それぞれの児童が興味をもっていることを学習内容と結び付け、意欲を高める。

令和6年度 体育科 授業改善推進プラン

大田区立東糀谷小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・例年は感染症対策のため、個人で行う運動や制限を設けたゲームを行うことが多かった。そのため友達や仲間と連携する運動の経験が乏しい児童が過半数だったが、コロナ禍が明け、体育の学習の中で勝敗を競うゲームにおける戦術学習などの学びの機会が増え、チームで協力することの大切さや楽しさを理解する児童が増えた。

(2) 課題

- ・体育学習を通して、体を動かすことの楽しさや喜びを味わうことができている児童が増えつつあるが、児童の意欲（運動したい、したくない）や技能面（能力が高い、低い）における二極化が目立つ状況が継続したままである。
- ・児童それぞれの興味関心、キャリア形成の方向性などに応じて児童が主体的に学習を行っていきけるように「個別最適な学習」をすすめると共に、集団の中で様々な意見に触れより良い学びにしていける「協同的な学び」をより一体的に充実を図る必要がある。

2 観点別分析

(1) 体力テスト結果の分析

専門業者による分析待ち

(2) 観点別の分析

①低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・運動遊びの楽しさに触れ、その行い方を知ることができている。 ・運動遊びに取り組む時間を十分確保したことで、基本的な動きが身に付いている。 ・体を腕全体で支える力、水中での動き、ゲームの中でボールを持たない動きが身に付いていない。	・走・跳の運動遊びでは、場を選んだり遊び方を工夫したりすることができている。 ・学習の振り返りの際に、感じたことを言葉で表現することができている。	・運動遊びにすすんで取り組むことができている。 ・きまりを守り、仲良く運動することができる児童が多い。 ・勝敗を受け入れられない児童もいる。 ・場や用具の安全に気を付けて準備や片付けをする経験が乏しい。

②中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方及び健康で安全な生活や体の発育・発達について、概ね理解している。 ・個人で行う基本的な動きや技能は概ね身に付いている。 ・体を腕全体で支える力、水中での動き、ボールを持たないときの動きが身に付いていない。	・自己の運動や身近な生活における健康の課題を見付けることができている。 ・走・跳・投の運動では、自分の課題に合わせて、場や活動を選択することができる児童は約半数である。	・運動にすすんで取り組むことができる児童が多い。 ・きまりを守り、仲良く運動することができる児童が多い。 ・勝敗を受け入れられない児童もいる。 ・友達の考えを認めようとしている。 ・場や用具の安全に気を付けて準備や片付けをする経験が乏しい。

③高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方及び心の健康やけがの防止、病気の予防について、概ね理解している。 ・個人で行う基本的な技能及び健康で安全な生活を営むための技能は概ね身に付いている。 ・感染症対策による制限のため、体を支持する力、各種泳法、ボールを持たないときの動きが身に付いていない。	・自己や他者の運動や身近な生活における健康の課題を見付けることが概ねできている。 ・自己やチームの課題を解決するための方法を工夫することができる児童は約半数である。	・運動に積極的に取り組むことが概ねできている。 ・約束を守り、助け合って運動することができる児童が多い。 ・勝敗を受け入れられない児童もいる。 ・仲間の考えや取り組みを認めようとしている。 ・場や用具の安全に気を付けて準備や片付けをすることができている。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・鬼遊びや遊具・用具を使った運動遊びに取り組む機会を多く設け、「遊び」を通して様々な動きに親しむ中で、基本的な動きが身に付くようにする。 ・単元を問わず、準備運動も兼ね、鬼遊びや短縄を使った運動遊び、体ほぐしの運動遊びを継続して取り組み、持久力や巧みな動きを身に付けたり、体を動かす心地よさを味わわせたりする。 ・ICT機器や教師、友達を通して、手本となる動きや低学年の実態に応じた動きのコツを伝える。	・学習課題に沿ってやりたいことを自己決定する活動を取り入れる。 ・単元によっては『学習カード』を活用しながら、振り返る学び方を体育科の中でも培っていく。 ・よい動き方に気付いたり、伝えたりする経験を積ませる。 ・自己だけでなく、友達の動きのよさを見付けさせ、伝える活動を取り入れる。 ・活動を振り返ることができる『学習カード』を活用する。○を付けるだけのものや一言で振り返ることのできるカード等を活用する。	・安全に留意し、きまりを守りながら、運動遊びにすすんで取り組めるような声掛けや場の設定をしていく。 ・場の準備・片付けを自分たちで安全に行えるように指導する。 ・運動を楽しむ姿勢や一生懸命に取り組んでいる姿を積極的に褒め、全体の意欲向上につなげるようにする。 ・運動のコツを掴ませ、できる喜びを味わわせ、運動の楽しさを実感させていく。 ・全員が活躍できる場や規則を設定する。 ・休み時間でも授業で行った運動に取り組めるように『学習カード』等を活用する。 ・休み時間には、教師もすすんで一緒に校庭に出て遊び、共に運動の楽しさを味わい、伝えるようにする。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・「体づくり運動」を要に多様な動きの獲得や動きの組み合わせができるようにする。 ・単元を問わず、準備運動も兼ね、鬼遊びや短縄を使った運動、体ほぐしの運動を継続して取り組み、持久力や巧みな動きを身に付けたり、体を動かす心地よさを味わわせたりする。 ・ICT機器や教師、友達を通して、手本となる動きや中学年の実態に応じた動きのコツを伝える。 ・授業の始めに、主運動につながる運動を取り入れる。 ・保健学習や食育とも連携し、健康の保持増進にも目を向けさせ、規則正しい生活と意欲的に運動をする態度を育てる。	・学習課題に沿ってやりたいことを自己決定する活動を取り入れる。 ・活動を振り返ることができる『学習カード』を活用する。○を付けるだけのものや一言で振り返ることのできるカード等を活用する。 ・自己の課題に合った場や練習方法を選択する活動を取り入れる。 ・自己だけでなく、チームやグループ活動の中の課題を見付け、課題を解決するための方法や活動を工夫しながら考えたり、互いの動きの良さについて見付け、考えたことを伝えたりする活動を取り入れる。	・安全に留意し、きまりを守りながら、運動にすすんで取り組めるような声掛けをする。 ・場の準備・片付けを自分たちで安全に行えるように指導する。 ・運動に楽しむ姿勢や一生懸命に取り組んでいる姿を積極的に褒め、全体の意欲向上につなげるようにする。 ・運動の仕方や技能のコツを掴ませ、できる喜びを味わわせ、運動の楽しさを実感させていく。 ・全員が活躍できる場や規則を設定する。 ・休み時間でも授業で行った運動に取り組めるように学習カード等を活用する。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・単元を問わず、準備運動も兼ね、持久走や短縄を使った運動、体ほぐしの運動に継続して取り組み、持久力や巧みな動きを身に付けたり、体を動かす心地よさを味わわせたりする。 ・ICT機器や教師、友達を通して、運動技術の重点を押さえる。 ・易しい場や練習方法を示し、課題解決方法を理解・活用し技能を高められるようにする。 ・授業の始めに、主運動につながる運動を取り入れる。 ・保健学習や食育とも連携し、健康の保持増進にも目を向けさせ、規則正しい生活と意欲的に運動をする態度を育てる。 ・感染症対策による制限のためできていなかった運動に取り組む際には、過度に負荷が掛からないようにする。	・学習課題を理解し、自己や他者の能力を分析したり解決方法を自己決定したりする活動を取り入れる。(ICT機器の活用) ・活動を振り返ることができる『学習カード』を活用する。○を付けるだけのものや一言で振り返ることのできるカード等を活用する。 ・運動中の状況判断が求められる活動を設定し、判断力を伸ばす。 ・健康の保持増進に向けた解決策を調べ、プレゼンテーションする場面を設定する。	・安全に留意し、約束を守りながら、運動にすすんで取り組めるような声掛けをする。 ・運動に楽しむ姿勢や一生懸命に取り組んでいる姿を積極的に褒め全体の意欲向上につなげるようにする。 ・運動のコツを掴ませ、運動の楽しさを味わわせる。 ・仲間の考えを認め、協働して学ぶ姿を価値づける。 ・全員に役割を与え、「する・見る・支える・知る」体育の見方・考え方に触れられるようにする。 ・休み時間でも授業で行った運動に取り組めるように学習カード等を活用する。

令和6年度 家庭科 授業改善推進プラン

大田区立東糀谷小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・学習したことを実際の生活に活用する機会が増えるように工夫したことにより、日常生活に生かそうとする意欲が育っている。
- ・友達との教え合いや互いの作品の良さを見付け合うなど、豊かな関わり合いの中で学習を進めている。

(2) 課題

- ・学習内容の定着度に課題がある。意欲的に取り組めるため、学習の直後はよく覚えている。しかし、時間が経過すると、既習内容を忘れてしまうため、学習の積み重ねが難しい。家庭と連携して学習したことを日常的に行っていく必要がある。
- ・個人の能力や生活経験の有無により、学習の到達度に関して、個人差が大きい。個別指導の充実や教え合いによる共有化が必要である。

2 分析（観点別）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・意欲をもって学習に取り組めるため、知識の習得はおおむねできているが、時間が経過すると忘れてしまう。 ・技能面では指先を使った細かい作業が多いため、技能の個人差が大きい。	・学習したことを基に日常生活の問題を見付け、解決方法を考えようとしているが、生活経験の有無によって、個人差がある。	・実習への意欲は高く、すすんで学習に取り組もうとしている。

3 授業改善のポイント（観点別）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・授業の中で知識を定着させていくために、引き続き相互での学び合いの時間をとり、豊かな関わり合いの中で知識を獲得できるようにする。 ・家庭と連携して学習したことを生活に生かすようにすることでさらなる定着を図る。 ・技能の個人差については個別指導を続けていく。	・授業の中で思考力を定着させるために、日常生活に生かしていくという視点で学習の振り返りを行わせる。 ・家庭と連携して、学習したことを実際に生活に生かしていけるようにする。	・主体的に学習に取り組む態度を養うために、引き続き、実習や実技などの活動の時間を確保していくための授業展開を続けていく。

令和6年度 外国語活動・外国語科授業改善推進プラン 授業改善推進プラン

大田区立東糀谷小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・色、形、数字などの身近なものを示す英単語を正確に聞き取ることは概ねできている。
- ・好きな教科や名前のスペルなど対話の具体的な情報を聞き取ることは概ねできている。

(2) 課題

- ・アルファベットの太文字や小文字などの読み取りや日常会話の理解はあるが、英単語の読み書きに課題がある。
- ・既習した英単語や表現を活用して、英作文をすることについて、課題がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第4学年			
第5学年			
第6学年	目標値に対して△		

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○学期を通して、授業の導入で「日時・曜日」、「数字」などの身近な英単語を含めた歌を繰り返し歌うことで、正しい発音ができるようになった。 ○英単語や会話の表現などは、繰り返し発声練習を行うことで、正しい発音ができるようになった。	○友達同士で英語を用いたコミュニケーション活動では、自己紹介や自分の考えを伝えることができた。 ○「好きなもの」や「好きな時刻の理由」などの学習では、既習事項だけでなく、自分の伝えたい英単語を調べ、伝えようとする姿が見られた。	○様々な英語表現に対し、慣れ親しもうと、すすんで発音練習やコミュニケーション活動に取り組もうとする姿が見られる。 ●発音を聞き取ることが難しく、英語を用いてのコミュニケーション活動に自信をもって取り組めない児童もいた。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○概ねアルファベットの形を正しく捉え、読んだり、聞き取ったりすることができている。 ●アルファベットの太文字や小文字の書き取りに課題がある。	○簡単な語句や基本的な表現を聞き取ることは、概ねできている。 ●例文を参考に、文を作成することに苦手意識をもっている児童がいる。	○ゲームや遊び等を通じて、友達と英語でのやり取りをする活動では、意欲的に学習に取り組む姿が見られた。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・日常生活の中で聞いたことのある英単語を使い、楽しく英語に慣れ親しむことができるような活動を積極的に取り入れていく。 ・既習事項をフラッシュカードやゲームを通して、復習する。	・今後も英語を話したいという気持ちを深めるために、児童のよい点を褒め、即時評価を行う。 ・学んだ英単語の定着を目標に、コミュニケーション活動を多く取り入れたり、習得した英単語を振り返る時間を設けたりする。	・英語に親しむことができるように、歌やゲーム活動を取り入れるなど、楽しく学習できる雰囲気をつくっていく。 ・児童が正しく発音できるように、ゆっくり発音したり、個別に発音の仕方を確認したりする。

（2）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・繰り返しの発音練習やカードを使った活動を通して、英単語を覚えられるようにする。 ・定期的に、英単語のテストや口頭での確認など既習事項を復習することで、児童の定着度を確認する。	・新しい英単語や表現を学ぶ際には、イラストと英単語を結び付けて判断したり、アクセントを確認したりして、定着を図る。 ・実際の場合を想定して、友達と英語でのコミュニケーション活動をする機会を設ける。 ・既習事項の確実な定着のため、授業の始めでは、前回学んだ英単語や表現を復習する。	・ゆっくり、繰り返し発音練習することやフラッシュカードを用いた活動を重点的に取り組む。正しい発音を身に付けさせ、自信を深めて活動に参加できるようにする。 ・楽しい雰囲気の中で英語に親しむことができるように、歌やゲームなどの活動を取り入れていく。

（3）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・書く領域については、なぞり書き、写し書きなどスモールステップで技能を定着させる。 ・簡単な語句や基本的な表現について、動画やイラストなどの視覚的な情報を用いた学習を行う。	・簡単な語句・表現を指導する際には、実生活での場面を想定させることで、適切な使い方を理解させる。 ・書くことに対する苦手意識を軽減させるために、自分の身近な人の紹介など取り組みやすいテーマで文章を書く学習を行う。	・歌やゲームも導入して、外国語への意欲・関心を高めるとともに、友達と英語でのやり取りをする活動を多く設ける。